

3 かんじのはなし

日本人が毎日つかっている文学には、かんじと、ひらがなと、かたかながあります。ローマ字もありますが、文の中ではあまりつかいません。かなは、ことばの音をあらわ

します。たとえば、「まど」の「ま」という音は、「まえ」の「ま」とおなじです。しかし、かんじは、かなとちがつて、いみもあらわします。たとえば、「木」は「き」という音をもっていますが、「氣」といういみもあります。「氣」も「き」とよみますが、いみがちがいます。

かんじは、中国で生まれた古い文学です。日本人は、1700年ぐらい前に、かんじを知りました。かんじを知る前に、日本には文学がありませんでした。日本人は、中国語のはつおんにちかいいよみ方で、かんじをよみました。たとえば、「水」は「すい」とよみました。しかし、日本語にも、おなじいみをあらわす「みず」ということばがありました。今、「水」にはよみ方が二つあります。「すい」というよみ方は、音よみといって、「みず」というよみ方は、くんよみとよみます。

毎日 文 音 氣 生 まれた 前 知 りました 中国語 よみ方 水 今

日本人は、はじめ、かんじだけで文を書きました。しかし、このやり方は、あまり良くありませんでしたから、あとで、かなをつくらせて、つかいました。かたかなは、かんじのいちぶをとって、つくりました。

(れい) 多→タ 知→チ 川→ツ 天→テ 八→ハ
万→マ 三→ミ 女→メ 良→ラ

ひらがなは、かんじのぜんたいのかたちをかえて、つくりました。

(れい) 安→あ 左→さ 太→た 知→ち 川→つ
天→て 女→め 良→ら

かなが生まれてから、日本語の文は、あたらしい書き方になりました。そして、かんじは、ほんとうに日本語のいちぶになりました。

□ しつもん

- (1) かなは、ことばの何をあらわしますか。
- (2) かんじは、ことばの何と何をあらわしますか。
- (3) かんじは、どこの国で生まれた文学ですか。
- (4) 日本人がかんじを知る前に、日本には文学がありましたか。
- (5) くんよみは、どんなよみ方ですか。
- (6) 音よみは、どんなよみ方ですか。
- (7) 「テ」は、どんなかんじからつくりましたか。
- (8) 「め」は、どんなかんじからつくりましたか。